

平成 18 年 7 月 10 日

各 位

会 社 名 エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社

代 表 者 名 代表取締役社長 松浦 勝人

(コード番号:7860 東証第1部)

問 い 合 わ せ 先 常務取締役グループ管理本部長 小林 敏雄

TEL 03-5413-8550

エイベックス創立 20 周年記念映画製作決定 ～ 広く一般よりストーリーを募集 ～

エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：松浦勝人）の 100%子会社エイベックス・エンタテインメント株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：松浦勝人）は、2008 年 4 月 11 日にエイベックス・グループ創業 20 周年を迎えるにあたり、記念事業の一つとして「エイベックス創立 20 周年映画」の製作を決定いたしましたので、以下、お知らせ申し上げます。

同映画は、記念事業にふさわしいスケールでの製作を予定しており、エイベックスが過去培ってきた文化を反映させた、類を見ない「音楽映画」にする所存です。

また、同映画は「映像と音楽が見事に融合したエンタテインメント・ストーリー」のアイデアを広く一般から公募することで始まる、「ファンと一緒に作っていく映画」であり、それが「20 年間エイベックスを支えてくれたファンへのプレゼント」となるべく作品にしたいと考えております。

記

○今後のスケジュール

- ・ 2006 年 7 月～10 月末 ストーリー募集
- ・ 2007 年初春（予定） キャスト・オーディション
- ・ 2007 年初夏（予定） 撮影
- ・ 2008 年初春（予定） 完成披露試写会
- ・ 2008 年 4 月 11 日 先行レイトショー公開
- ・ 2008 年 4 月 12 日 全国ロードショー劇場公開、を予定しております。

詳細は公式サイト、<http://www.avex20th.com> をご参照下さい。

募集要項

【募集ストーリー】

ラブストーリー、青春映画、群像劇、ダンス映画、その他何でも……ジャンルを問わず「音楽」の要素が何か絡んでいて、新しく、世界の誰もが楽しめるもの。形式も同様に、一般映画、ミュージカル、アニメーションなど、ジャンルを問わず広く募集します。

【募集期間】

2006年7月10日（月）～ 2006年10月31日（火）

【発表】

2007年春頃

【応募資格】

年齢、性別、プロ、アマチュアの一切は問いません。

【賞】

グランプリ 賞金 1,000 万円
準グランプリ（若干名） 賞金 300 万円

【主催】

エイベックス・エンタテインメント株式会社

【応募方法】

公式サイト（PC、モバイル対応）の応募フォームまたは、郵送にてご応募できます。

公式サイト：<http://www.avex20th.com>

郵送宛先：〒107-8577 「20周年記念映画ストーリー募集」係

【応募内容】

- ①「タイトル」
- ②「あらすじ」 ストーリーのあらすじです。（200字以内）
- ③「登場人物」 主人公やその他の登場人物の年齢や性格などをお書きください。（400字以内）
- ④「ストーリー」 短くても内容が理解できれば問題ありません。（2,000字以内）
- ⑤「その他特記事項」 アピールしたいポイントがあれば、自由にお書き下さい。
*必須項目ではありません。（1,000字以内）
- ⑥「プロフィール」 氏名／生年月日／性別／職業
- ⑦「連絡先」 住所／郵便番号／電話番号／メールアドレス

*シナリオが既にある方やこれから書く方、シナリオでのご応募も受け付けております。

*応募されたストーリー、シナリオの返却は致しませんのでご了承下さい。

*頂いた個人情報は本募集に関する目的以外に使用することはありません。

これまでエイベックスの約 20 年は、挑戦と改革の歴史でした。2005 年より本格的に立ち上がった、音楽部門と同列の柱である映像事業部門も、日々新たな挑戦と向き合っています。

したがって、エイベックスが「20 周年の映画を作る」という意味合いも、単なる「20 周年だから大作映画を作る」というものではなく、「この作品で映画界に挑戦する」という想いが込められています。「20 周年」を冠したこの記念映画が会社の節目として特別なものであると同時に、「今後、エイベックスが映画やエンタテインメントに対してどう考えていくか」に対する一つの指針となるものと捉えているからです。

まず、「誰もやらなかったことを、エイベックスだからやる」という音楽でも貫いてきた基本理念を映画でも体現したい——例えば、エイベックスの所属アーティスト全員が映画に何らかの形で出演したら、どうでしょう。これは、通常の映画の企画では考えられないことだと思います。そういう、傍から見ると「無理」と思われてしまうことも、エイベックスが音楽で培ってきた DNA で実現したいと考えています。

例えば、エイベックスは「世の中の人に、音楽を身近なものにした」という自負があります。普段 CD を買わなかったような人が、通常の「音楽」を買うというよりも、「流行や話題性という『ムーブメント』を買った」という感覚で、エイベックスのアーティストの CD は買って見た、という事象があり、それまで一部のものと思われていたダンス音楽が浸透しました。一方では、浜崎あゆみや ELT の持田香織のように、普通の女の子がスターへの階段を一気に駆け上がったというシンデレラ・ドリームがありました。しかし、広く人に受け入れられやすい「キャッチーで口当たりが良い」エイベックスの音楽は、もしかすると一部の人には、苦々しいものであったのかもしれませんが——でも、それよりも圧倒的に、世の中の人たちはエイベックスの音楽を支持してくれたと思っています。

だから同様に、映画の世界でも僕たちは、「世の中の人に、映画を身近なものにしたい」と考えています。普段は映画に来ないような人にも劇場に足を運んでもらえるような映画を作っていきたいと。内容はこれからファンと一緒に考えていくことになりますが、この「20 周年作品」も、もちろんそういう映画です。

一つ例に挙げると、公開当時に「ミーハー」と評論家に酷評されたものでも、実は脇を固めるスタッフは一流陣、そして若い人から強い支持を受ける、その結果評価が高まり、その先まで語り継がれる映画——そんな映画作品も過去にあります。エイベックスの映画は、もしかすると、それと似た感じになるのかもしれませんが。音楽と同様、監督や脚本のヒットメーカー、音楽で言う小室哲哉さんのような大プロデューサーと組むことでヒット作を連発したり、映画のプロからは「何だ、あれ？」と言われても、世の中を確実に味方につけた作品であったり、「女優」という形で、浜崎や持田のようなシンデレラ・ドリームが実現するような……。それこそ「あの作品を観ていないと、次の日の話題に乗れない」というような、ムーブメントを起こす映画を作っていきたいと思っています。

もちろん、クリエイターにとっても、印税システムや仕事面でのバックアップという面で、エイベックスが魅力的な会社であることは必須です。現状に閉塞感を感じている、有能なクリエイターが自然と

集まってくるようなシステムにしたいと思っています。今回の「20周年作品」のアイデア募集でも、グランプリ獲得者の権利を最大限に尊重いたします。賞金やクレジットの表記に加え、印税のお支払い——さらに将来プロを目指されるのであれば、エイベックス・グループとして全面的に支援させて頂く所存です。

最後に、やはり音楽を母体にして始まったエイベックスとして、「音楽映画」には今後も強いこだわりを持っていきたいと思っています。アジア——そして全世界にも通用するようなジャパン・オリジナルの音楽映画を作りたい。それが僕たちの夢です。「20周年記念映画」はそういう想いが込められた映画にしたいと思っています。もちろん、映画の宣伝に絡めて、斬新なプロモーションやイベントも計画しています。どうぞご期待下さい。

以 上